

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	38339
事業名	都心部クロスカントリースキー大会実証実験費					
評価担当課	所属名	ス)招致推進部 調整課				
	課長名	須志田	担当者名	柳澤	電話番号	011-211-3042
施策名	主	身近なところでウインタースポーツを楽しむことのできる環境が充				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外	戦略ビジョン		● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	・都心部におけるクロスカントリースキー競技の国際大会の開催			
		長期	・2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致機運醸成 ・クロスカントリースキーをはじめとしたウインタースポーツ観戦文化の定着 ・札幌ならではの新たな冬の賑わいの創出			
	取組内容	札幌ならではの冬の賑わいを新たに創出するため、都心部におけるクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指し、アスリートを対象としたクロスカントリースキー大会の実証実験を行う。 【事業内容】 都心部を含む市街地においてクロスカントリースキー大会を開催する。2019年度より実証実験を行い、大会実行委員会に対して大会開催に要する費用を一部負担する。				
実施結果	令和元年度の前回大会では、大通公園にて大会を開催したが、新たな冬の賑わいやウインタースポーツに親しむ環境の創出に向けた取組として、1972年大会のレガシー施設である真駒内公園に会場を変更して大会を開催した。大会は、令和5年2月11日に「さっぽろスノースポーツフェスタ2023」として、ジュニア部門とパラアスリート部門のクロスカントリースキー競技大会を開催したほか、市民向けのスキー・スノーボード教室などのウインタースポーツ体験イベントを実施した。イベントを通じて359人が来場した。(競技者、競技関係者含む)					
事業実施における工夫点	大通公園から真駒内公園に会場を変更したことにより、中心部での交通規制が不要となり、警備費用を圧縮したほか、公園内の豊富な雪をコース造成に活用したり、既存施設を諸室として利用するなど、前回大会と比べて、大会運営に係る費用を抑制した。					
対象者	市民、アスリート	開始	平成31年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等						
他都市の状況	都心部の公道を利用したクロスカントリースキー大会開催事例 ・ドラムメン(ノルウェー) ・デュッセルドルフ(ドイツ)					

## ◎事業費

(単位:千円)

		令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費		2,541	20,000	6,031	20,000
うち特定財源		0	0	0	0
人工		0.5	0.5	0.5	0.5
人件費		3,600	3,600	3,600	3,550
計(事業費+人件費)		6,141	23,600	9,631	23,550
事業費の内訳	令和4年度決算	大会実行委員会に対する負担金 6,031千円			
	令和5年度予算	大会実行委員会に対する負担金 20,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名				
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定	
成果指標1	指標名	都心部におけるクロスカントリースキー競技国際大会の開催			
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	
	-	開催	競技大会の開催	競技大会の開催	
成果指標2	指標名				
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和元年度の前回大会から会場を変更し、大会規模を見直すなど、新たな大会運営手法の取組を実施したことにより、今後の大会運営の在り方や集客性の効果について検証を実施することができた。あわせて、競技大会や体験イベントを実施したことにより、市民のウインタースポーツに対する関心の向上に寄与することができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	初開催となった令和元年度は、大通公園で開催したことにより観客が集まり、多くのスポンサー収入を確保できた一方、コース整備や警備等に多くの費用がかかった。令和4年度は、会場を真駒内公園に変更し大会規模を見直したことにより大会費用を抑えることができたが、競技会場が郊外であり参加者や観客が少なかったため、費用を抑えつつ集客を見込める会場の検討が必要。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	実行委員会事務局を設置した札幌商工会議所を中心に、実行委員会の構成員が役割分担し、効率的にイベント運営を行った。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	B	競技大会の実施だけではなく、体験も併せて開催したことで、ウインタースポーツに対する市民の関心を効果的に高めることができた。しかし、競技会場が郊外であったため参加者や観客が少なく、賑わいの創出やみるスポーツの振興といった面で効果が小さかった。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外    市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	都心部と郊外の2箇所での開催実績により、それぞれの効果や課題を把握することができた(都心:費用<大>観客<多>)、郊外:費用<小>観客<少>)が、今後は継続的な競技大会の開催や効率的な運営手法の確立に向けて、実行委員会や競技連盟等の関係者とさらなる検証を進めていく必要がある。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	前回大会から会場を変更するとともに大会規模の見直しを行うなど、競技大会の継続的な開催や効率的な運営手法の確立に向けた検証を行った。	見直し効果額 (前年度)	0	千円	
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	会場変更等などにより大会規模を見直したことで、都心部と郊外におけるそれぞれの効果や課題を把握することができた。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 将来の国際大会誘致を見据え、実行委員会・競技連盟と協議を進めながら、試行的な大会の開催実績を積み重ね、継続的な大会開催に向けた検討を行うとともに、より多くの市民に参加・観戦してもらうため、過去2回の実証実験を踏まえ、費用を抑えつつ、集客数も確保できる大会形式の検討を行う。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 大会の自走化に向け段階的に札幌市負担金を減額することを検討する。	見直し効果額	0	千円